

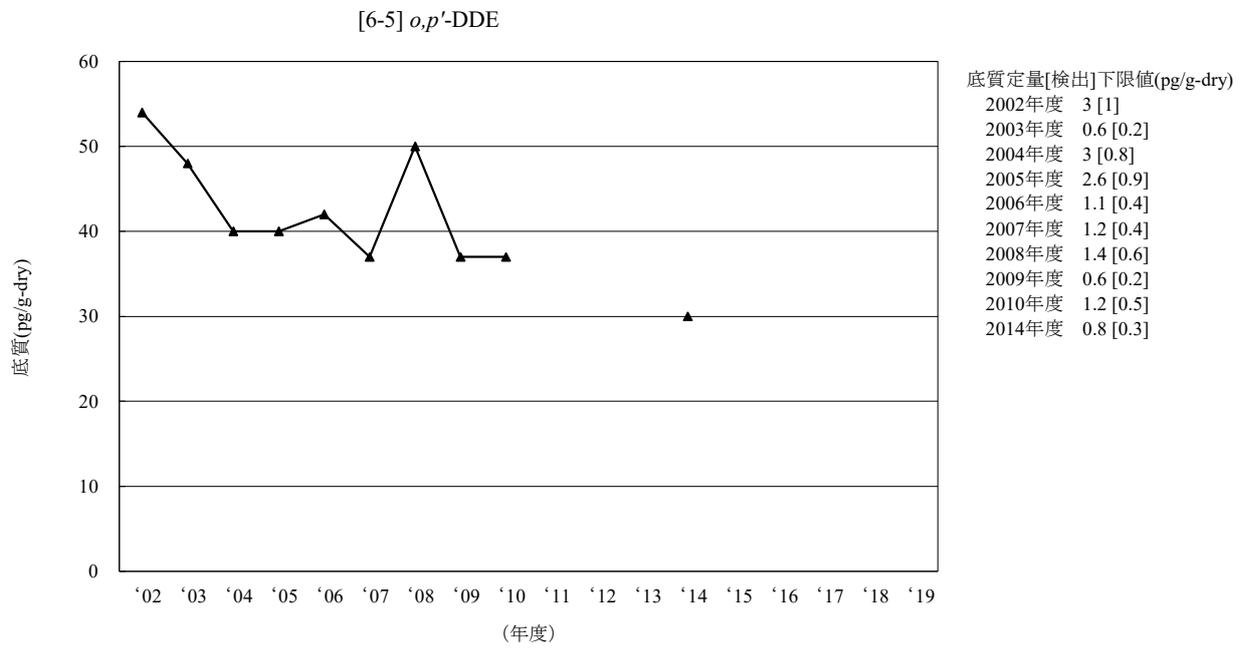
資料 2-2 令和元年度（2019 年度）化学物質環境実態調査結果報告書（案） 正誤表

頁等	誤	正
P. 48 下段	「・規制」の記載	P. 49 の末尾に移動 [8] (4-{{4-(ジメチルアミノ)フェニル}}フェニル)メチリデン}シクロヘキサ-2,5-ジエン-1-イリデン)(ジメチル)アンモニウム=クロリド) (別名：マラカイトグリーン塩酸塩) の規制として記載すべき内容で、記載位置の誤り。
P. 105 上段 表中	⑦ 隅田川河口 (港区) 2019 <u>0.32</u> 0.58	⑦ 隅田川河口 (港区) 2019 <u>32</u> 0.58
P. 107 中段	また、 <u>水底質モニタリング</u> において 1986 年度及び 1988 年度から 1998 年度までの毎年度に 16～22 地点を調査し、最も多い年度には 4 地点で検出され、 <u>水底質モニタリング</u> が実施された全期間を通じての検出濃度は 420ng/L までの範囲であった。	また、 <u>水質・底質モニタリング</u> において 1986 年度及び 1988 年度から 1998 年度までの毎年度に 16～22 地点を調査し、最も多い年度には 4 地点で検出され、 <u>水質・底質モニタリング</u> が実施された全期間を通じての検出濃度は 420ng/L までの範囲であった。
P. 107 中段 表の注 及び P. 111 中段 表の注	(注) ※：検出下限値の欄に「不詳」と記載された結果については、 <u>水底質モニタリング</u> の結果であり、検出下限値に関する記載が残されていないことから、参考値として検出されたなかでの最小値を記載した。	(注) ※：検出下限値の欄に「不詳」と記載された結果については、 <u>水質・底質モニタリング</u> の結果であり、検出下限値に関する記載が残されていないことから、参考値として検出されたなかでの最小値を記載した。
P. 110 中段 表の注	(注 1) 1986 年度から 1998 年度までの <u>水底質モニタリング</u> において 2019 年度と同一地点で調査が行われているが、検出下限値に関する記録が残されていないことから比較は行わなかった。	(注 1) 1986 年度から 1998 年度までの <u>水質・底質モニタリング</u> において 2019 年度と同一地点で調査が行われているが、検出下限値に関する記録が残されていないことから比較は行わなかった。
P. 110 下段	また、 <u>水底質モニタリング</u> において 1986 年度及び 1988 年度から 2001 年度までの毎年度に 16～22 地点を調査し、最も多い年度には 15 地点で検出され、 <u>水底質モニタリング</u> が実施された全期間を通じての検出濃度は 150ng/g-dry までの範囲であった。	また、 <u>水質・底質モニタリング</u> において 1986 年度及び 1988 年度から 2001 年度までの毎年度に 16～22 地点を調査し、最も多い年度には 15 地点で検出され、 <u>水質・底質モニタリング</u> が実施された全期間を通じての検出濃度は 150ng/g-dry までの範囲であった。
P. 113 下段 表中	⑳ 大分川河口 (大分市) 2019 <u>1.3</u> <u>1.7</u> <u>2.1</u> <u>0.24</u>	⑳ 大分川河口 (大分市) 2019 <u>0.38</u> <u>0.53</u> <u>0.78</u> <u>0.095</u>

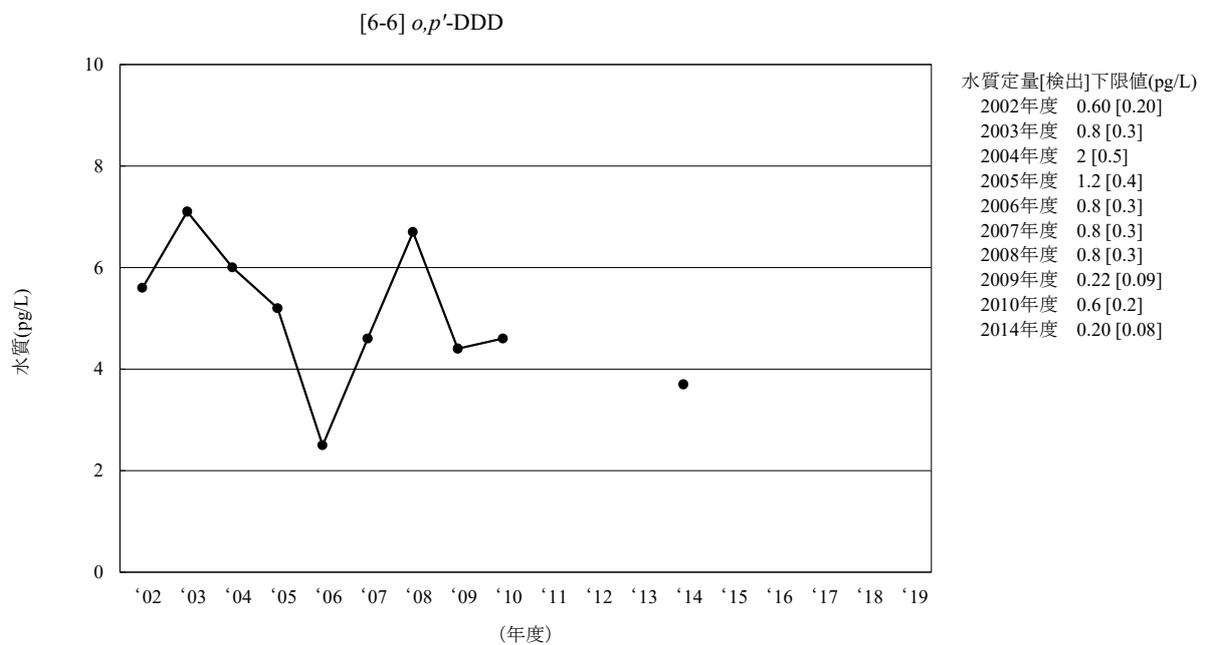
頁等	誤	正
P. 110 中段 表の注	(注 1) 1986 年度から 2001 年度までの <u>水底質モニタリング</u> において 2019 年度 と同一地点で調査が行われているが、検 出下限値に関する記録が残されていな ことから比較は行わなかった。	(注 1) 1986 年度から 2001 年度までの <u>水質・底質モニタリング</u> において 2019 年 度と同一地点で調査が行われているが、 検出下限値に関する記録が残されてい なことから比較は行わなかった。
P. 144 上段 表中	生物 (魚類) 15 12 16 1** 全媒体 58 14 123	生物 (魚類) 16 12 16 1** 全媒体 58 14 121
P. 144 下段	(5) 調査対象生物種 生物媒体において調査対象とする種 は、指標としての有意性、実用性のほか、 国際的な比較の可能性も考慮し、ムラサ キイガイ及びスズキを中心に貝類 1 種、 魚類 8 種及び鳥類 1 種の計 10 種とした。	(5) 調査対象生物種 生物媒体において調査対象とする種は、 指標としての有意性、実用性のほか、国 際的な比較の可能性も考慮し、ムラサキ イガイ及びスズキを中心に貝類 1 種、魚 類 7 種及び鳥類 1 種の計 9 種とした。
P. 194 下段 表中	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル --- --- --- --- --- --- --- 200 100 20 220 --- 9 7 6 8 4 3	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル --- --- --- --- --- --- --- 200 100 20 220 --- 9 7 6 8 4 6
P. 196 下段 表中	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル --- --- --- --- --- --- --- 20 80 20 89 --- 80 20 41 10 14 3	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル --- --- --- --- --- --- --- 20 80 20 89 --- 80 20 41 10 14 2
P. 271 下段 図 3-6-5-2	水質の図	<u>底質の図に差し替え</u> (別添参照)
P. 273 上段 図 3-6-6-1	水質の図	<u>検出下限値を追加</u> (別添参照)
P. 279 上段 表中	<i>cis</i> -クロルデン、2010 年度 温暖期の最小値： 1.8 寒冷期の最小値： 0.84 温暖期及び寒冷期の定量[検出]下限値： 0.17 [0.06]	<i>cis</i> -クロルデン、2010 年度 温暖期の最小値： 2.2 寒冷期の最小値： tr(0.8) 温暖期及び寒冷期の定量[検出]下限値： 0.9 [0.3]
P. 286 下段 図 3-7-1-2	水質の図	<u>底質の図に差し替え</u> (別添参照)
P. 289 上段 図 3-7-2-3	底質の図	<u>生物の図に差し替え</u> (別添参照)
P. 356 下段 図 3-14-4-2	生物の図	<u>検出下限値を追加</u> (別添参照)
P. 387 上段 図 3-19-2-2	生物の図	<u>検出下限値を追加</u> (別添参照)

別添

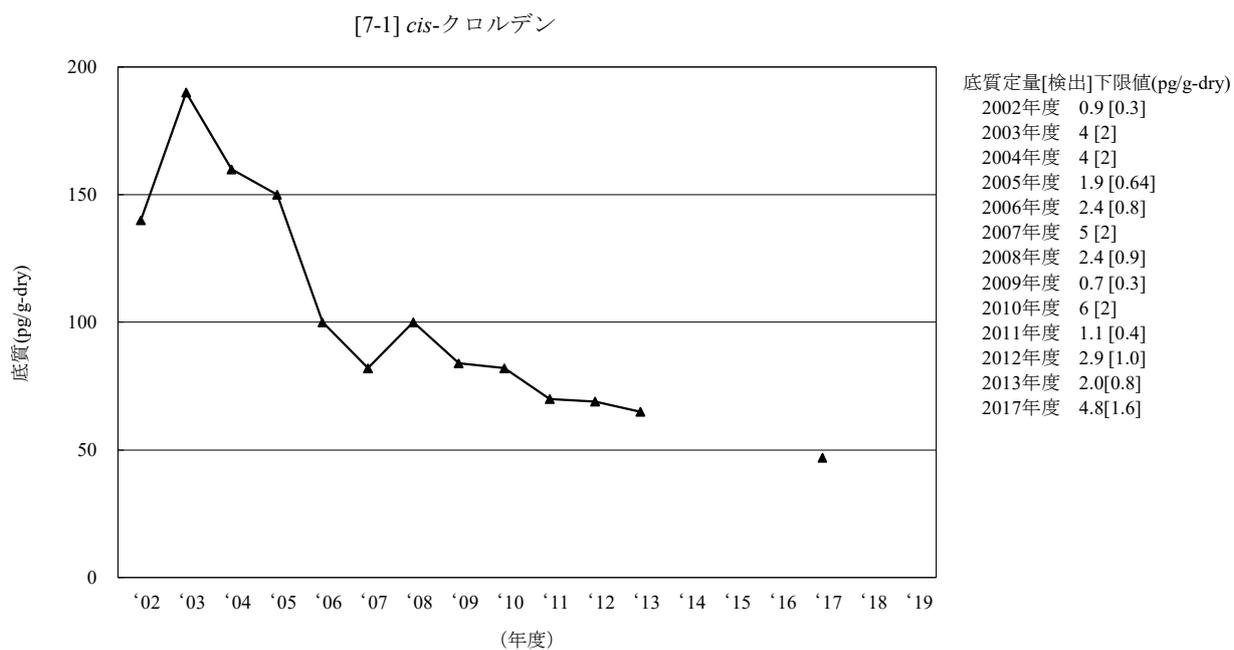
P. 271 下段 図 3-6-5-2



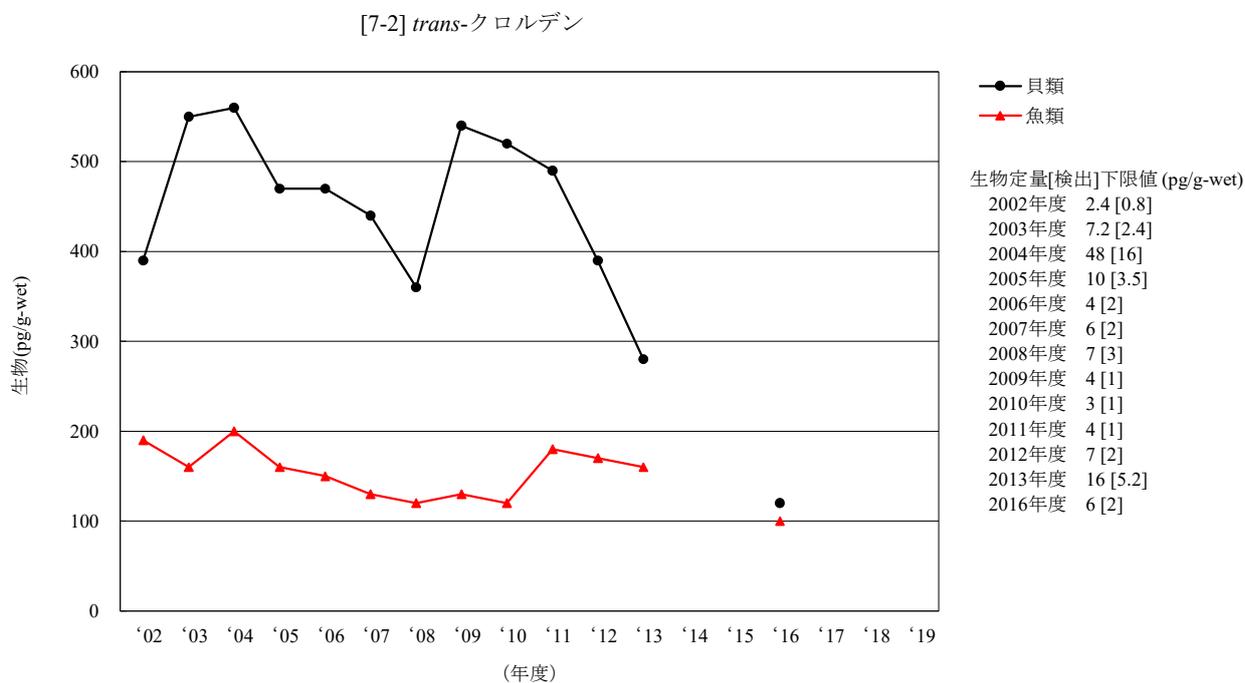
P. 273 上段 図 3-6-6-1



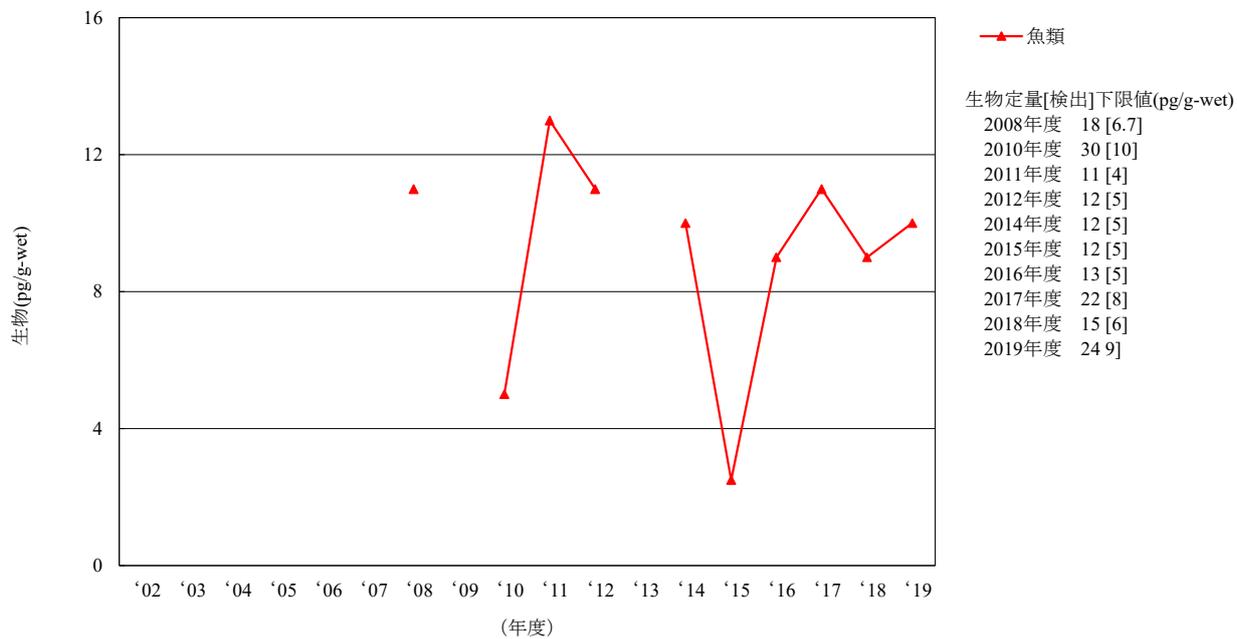
P. 286 下段 図 3-7-1-2



P. 289 上段 図 3-7-2-3



[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類



[19-2] β -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン

